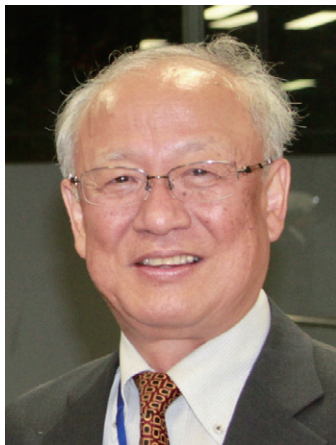




会長挨拶

首都圏段戸会会長

福山 透 (高19回)

高19回同期の村木央明前会長の後任として、昨年の首都圏段戸会総会で会長に選任された福山透と申します。理科系で首都圏在住でもないという、かなり異色の人事ですが、岡高を愛する気持ちは卒業以来ずっと持ち続けてきました。ただ、会長の役目は若い方々に気持ちよく活動していただくように見守る、というくらいに考えていますので、過度な期待はご容赦下さい。

私は大学院在学中に米国の大学へ移籍

首都圏段戸会会報

令和元年9月
第44号

発行責任者
首都圏段戸会
会長 福山 透
編集者
広報担当 織田 利彦

した恩師に従って渡米し、22年間（大学教員としては17年間）の悪戦苦闘を経験した後に平成7年夏に帰国しました。その間、中学・高校のクラス会に出席することも叶わず、日の丸を背負った一匹狼として有機合成化学の研究に没頭していました。勿論、異文化の中に身を置くことで貴重な体験をし、視野もそれなりに広がったとは思いますが、岡高時代に言いたいことを言い合った仲間が傍に居ないのが寂しかったことも事実です。

平成9年の首都圏段戸会総会・懇親会に同級生に誘われて初めて出席した時、「岡高の空気」を吸ったという共通点だけで諸先輩や後輩の皆さんとあつという間に心が通じたことに驚き、日本に帰ってきて良かったという思いを新たにしました。その後、首都圏段戸会の活動を会員諸氏にアピールして、参加を促すためにはホームページ（HP）を作る必要があるという村木君の熱意に共感し、平成15年に稚拙ながらも現在のHPを立ち上

げました。このHPを若い情報担当の世話人連中と「岡高愛」をキーワードに助け合いながら楽しく維持管理しています。さて、「人との出会い」が人生を豊かにすることは言うまでもありませんが、ともすれば自分の殻に閉じこもったりして貴重な出会いの機会をみすみす失うこともあるでしょう。首都圏段戸会の会員一人一人はユニークな才能と経験の持ち主であり、共通の「岡高愛」によって初対面でもお互いの人生を高めることができると思います。今年の総会・懇親会は10月26日（土）の予定です。腰が重い同級生や先輩後輩、さらに転勤、結婚などで首都圏に転入された方にもお声がけいいただき、新たな「出会い」を求めてご参加くださるようお願いいたします。また、在校生の皆様のおかげで今後首都圏に進学や就職などで転居されることがあれば、この会に参加して親切な先輩諸氏と交流されるようお勧めします。



「首都圏段戸会」は愛知県立
岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ

<http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索



パソコンやスマートホンが不得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

“段戸囲碁会”

（幹事：藤田 訓弘 高13回）kfujita@muc.biglobe.ne.jp

“段戸音楽会”

（幹事：石川 航己 高58回）koki.ishikawa.49@gmail.com

“段戸句会”

（幹事：野村 親信 高16回）nomurac@jcom.home.ne.jp

“段戸山の会”

（幹事：満江 信之 高15回）nmitsue@ae.auone-net.jp

“胃文化交流会”

（幹事：都築 正行 高19回）masa_tsuzuki2000@yahoo.co.jp

第47回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日 時 令和元年10月26日（土）13：00～16：40
（受付）12：30～15：30

●場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）
千代田区九段北4-2-25（TEL 03-3261-9921）
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）
から徒歩2分



— 総会・懇親会にお早めにお越しください —

受付の仕事は、世話人が分担して行っているのですが、受付担当の人達も、会員の皆さん同様に講演会や懇親会を楽しんでいます。このような事情をご察察の上、できるだけ早い時間に（できれば13：30頃までに）受付をお済ませ頂けると助かります。会員の皆様のご理解・ご協力を宜しくお願いします。

●講演会 タイトル：第4次産業革命が変革する「モノづくり」社会
講 師：青山 和浩（高34回） 東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 教授
インターネット、ビッグデータ、AIなどの新技術は新しいビジネスを誕生させるとともに産業のみならず日常のライフスタイルも変革させつつあります。特に「モノづくり」の世界では、この変革は「第4次産業革命」と称され全世界で急速に拡大し、「モノづくり国家」の日本の競争基盤を揺るがしています。「モノづくり」の情報化についての研究者として日本の「モノづくり」の厳しい現状と未来を紹介します。あわせて、高校、大学のラグビー部の経験から文武両道の教育スタイルの魅力についてもお話いたします。

（略歴）

平成元（1989）年3月 東京大学 大学院工学研究科 修士課程修了
同 年4月 三菱重工株式会社 入社
平成9（1997）年4月 東京大学 大学院工学系研究科 助教授
平成20（2008）年7月 東京大学 大学院工学系研究科 教授（現在に至る）
※2004年より東京大学運動会ラグビー部部長、2017年より同部監督
※岡崎高等学校 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員



●会 費 男 性 8,000円 女 性 6,000円
ただし、以下の会員には特別割引があります。
古稀を過ぎた会員（高19回以前） 5,000円
若手会員（高57回以降） 5,000円
学生会員（高57回以降の大学、大学院、専門学校等の学生） 1,000円
小さなお子様をお連れいただいても結構です。（小学生以下無料）
キッズコーナーもご用意いたしましたのでご利用ください。

●ご 招 待 古稀年次（高20回）の方はご招待申し上げます。（会費無料）

●招聘恩師（予定：敬称略）

平松（深津） 学（保健体育） 吉野 功（保健体育） 川浪 泰郎（保健体育） 日高 慎吾（数学）



高16回 大山 達雄

私は栃木県真岡市のはずれにある田舎町の二宮町というところで生まれた。しかしながら父親が農水省（当時は農林省）の公務員ということもあって、父の転勤のたびに全国の牧場を周りつつ、転校を繰り返した。最も長い学校生活は宮崎県小林市で、小学校3年から小林高校1年までの8年間を過ごした。岡崎高校在学は2年次編入で卒業までの2年間ということになる。現在の宇都宮での生活は40年余になるが、栃木県生まれと言いつつ、栃木県では学校に通うことは一度もなかった。大学入学以降はすべて仕事も東京地区なので、それがもはや半世紀ということになり、月日の経つのが早いを実感している。これまでの70年余の自分の生活を振り返りつつ、そこから得た「人生訓みたいなもの」を3つ取り上げ、紹介してみたい。

まず最初は、大学進学を決めるとき、学部紹介文の中に、「世の中で起る自然現象、社会現象を数理的に解決する」、「いろいろな問題を数学的、数理的に分析し、解決する」といった表現を見つけ、自分がやりたいのは「諸現象の説明、各種問題の解決に数学を応用すること、つまり応用数学だ」と思って、当時の東京

大学工学部応用物理部門計数工学科数理工学コースに決めた。大学院修士まで大学にいたが、就職先を決めるとき、同じ研究室の3人とも明確な希望がなかった。そこで、指導教官に紹介してもらった3社を3人で「企業訪問」し、ジャンケンで就職先を決めた。私は一番負けたので、残った電力中央研究所に入った。ここで得た人生訓は、①とにかく自分のやりたいこと、好きなことをやるのがいい、ということである。

次は、電力中央研究所に入所して3年目に、米国出張留学ということで、米国コーネル大学の工学部オペレーションズリサーチ部門に入学し、博士課程で3年半余学んだ。博士終了後もずっと当時の指導教授との交流が続き、毎年あるいは隔年には夏休みはコーネル大学（ニューヨーク州イサカという町にあってキャンパスは米国の大学で最も美しいと信じている）に行くというライフスタイルができ、それは指導教授が昨年退職（米国大学では定年制度はない）するまで30数年も続いてきた。いい「友人」は一生の宝であると思う。ここで得た人生訓は、②人とのつながり、人間関係を大事にする、ということである。

最後は、帰国後電力中央研究所に戻って、2年後に埼玉大学教養学部に移り、そして大学院政策科学研究科に約17年間勤めることになった。そして1997年に大学院政策科学研究科が現在の政策研

究大学院大学となつて独立し、それ以来そこに勤務しているが、私の大学勤務もあつという間に通算40年近く経ってしまった。大学院では学生の教育、研究指導、そして自分の研究というのが主な仕事である。大学院の仕事とはいっても、教育、研究に加えて

管理職（私の場合、大学院研究科長、副学長、理事などを10年余務めた）も含まれるが、仕事としてイヤだと思つてやつたことはない、イヤならやらなければいいのだから。仕事は現在でもまだ楽しんでいると自信を持って言えそうである。ここで得た人生訓は、③仕事は、やる以上は好きになるべきでイヤイヤやるべきではない、ということである。

以上、私がこれまでに得たものとして3つの「人生訓らしきもの」を紹介したが、これらは決してそれぞれが独立した別のものではないと思つている。すなわち、これらをまとめるとしたら、「人生は自分の好きなことを、人とのつながりを大切にしつつ、仕事として楽しみながらやることである」とでも言えるのはなからうか。そうすれば、自分の好きなことを自分で決めてやったのだから後



悔することはなく、たとえ失敗しても他人のせいにはできない、言い訳もできない。つまり喜びも苦しみもすべて自分に戻ってくるのである。そして人とのつながりを大事にすることによって人生を豊かで楽しいものにできる。常に人間関係を大事にするという心構えがあれば、必ずそれは可能はずである。仕事を楽しみながらやるということは、仕事が長続きするための必要条件である。イヤイヤ仕事をやっていたら、それこそ何の得にもならないし、長続きもしない。まさに継続は力なり、である。何でもいい、とにかく仕事を継続することは自分の力ともなるはずである。

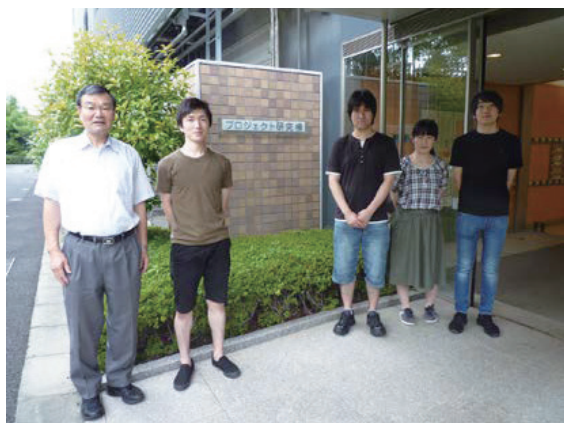
思いつくままのことを書いてしまったが、後輩諸氏にとっては、人生70年余を経た一先輩が経験から得た一つの事例として受け止めてもらえると幸甚である。

研究者の停年

高17回 伊與田 正彦

10年前に首都大学東京で63歳の定年を迎えたのですが、国から科学研究費をもらい、大学で学生を相手に研究を続けています。大学4年生から研究を始め、50年以上続けていますから、現在の環境に慣れて、頭の衰えを感じながら、大学での研究をやめた時の姿が想像できず、今も机の前で実験データの整理と英語の論文書きをしている毎日です。いつ「停年」という区切りを自らに課そうかと考えながら、私の考えをまとめてみました。

大学を定年になると、(1)他の私立大学に移って講義と研究を続ける、(2)自分の好きな世界に入って、第二の人生を楽しむ、(3)定年後も新しいポジションを得て大学運営に取り組んだり、公的な研究費を獲得して研究者としての道を歩み続け



首都大学東京の研究棟の前で（筆者は左端）

る、という主に3つの選択肢があります。以前は、(1)と(2)が主流でしたが、最近では定年後もタイプ(3)で同じ大学に残って仕事ができるようになってきました。

私の場合はタイプ(3)を選び、70歳前半になりながら、午前10時に研究室に行きまして、夜まで仕事をするという生活を続けています。私の研究は実験系で、新たな有機物質を作り出して、その物性を調べるのが目的です。そのため、実際の実験をする若い学生とチームを作って研究するのですが、現在は横浜国立大学の大学院生と一緒に実験をしています。

以前の大学教員は、自由に研究を楽しんでいたのですが、講義だけで他に何もしない教員に対する批判から、仕事内容を示す書類を作成したり、大学運営の会議を増やしたり、組織変えを頻繁にしたりして、今の国公立大学の教員は雑用で非常に忙しくなっています。そのため、研究に専念できないのですが、私の場合は、すでに定年を迎えていますから、現役の教員のように雑用に追われることなく、研究に専念でき、その点で満足しています。

最後になりましたが、タイトルの「研究者の停年」です。理系の研究は、常に新しくなっていますから、立ち止まると遅れます。研究から1年離れると、最先端の内容が分からなくなります。私は、今、大学で論文を書いたり、学生と議論したり、他の研究者の論文を審査したりしていますが、将来、公的研究費がもらえなくなると、自宅で仕事をするようになりますから、その段階で徐々に停年を迎えることになります。「人生は自転車に乗っているようなもの。バランスを維持するには、動き続けなければならない」

という言葉の人生を研究に置き換えて、72歳の今も動き続けています。

日々は鍛錬

ーバンカーから研究者へー

高46回 朝岡 大輔

首都圏段戸会の世話人をお引き受けしてから早いもので10年以上経つが、思うようにお手伝いできていないこの頃である。今回、会報執筆のご依頼を頂き、どれだけの罪滅ばしになるかどうか分からないが、何かのご参考になれば幸いである。

2018年、それまで勤めていた政府系金融機関を辞し、明治大学商学部に移った。バンカー時代には、恐らく地球を10周はしたのではないかと思う。その間、米国の大学院留学や博士号取得、専門書の出版を経て、二足の草鞋を履いてきたが、この辺りで研究に専念するのも良いかと考え、バンカー生活に区切りをつけた。こうして御茶ノ水で、朝岡研究室がスタートした。企業のファイナンスやガバナンスの問題を研究している。秋からは京都大学でも教えることになった。研究室の窓からは、今年、建築のプリツカー賞を受賞した磯崎新の手掛けた旧カザルスホールや桜の木が見える。カフェに入れば、熱心に楽譜を読む演奏家がいる。

しかし研究者は、日々鍛錬だと思う。自由な心で考え続け、自ら形にし続けることが仕事だ。考えることが山のようにある。おそらく果てはないのだと思う。1年目に7本の論文を出版し、文部科学

省から研究費も頂いた。しかし、まだまだ、全然、である。社会科学の研究者には、現実の社会への貢献も大切だ。日本証券アナリスト協会の試験委員や、国土交通省航空局の検討会議や委員会の委員を務める機会を頂き、バンカー時代とはまた違った角度から社会とつながる。

高校時代には、卒業生の木村資生先生の業績に自然に接していたことや、在校生の親戚というご縁で梅原猛先生が講演に来られたことを思い出す。商法学者の大隅健一郎元最高裁判事も卒業生である。そして今、総会で気さくな笑顔で写真を撮って下さるのは、化学者の福山透先生（首都圏段戸会会長）である。とても身近に感じられるところに、学問の泰斗が自然におられる。こうした風土が、岡崎高校出身の研究者を生み続ける土壌となっているのだと思う。そして、高校で吸った自由と伝統の空気、大切な仲間と触れ合った記憶、恩師から受けた薫陶が、今の自分を作ってくれているのだとつくづく思う。感謝の心と共に、残された時間でも何かを残したいと思う。



筆者が勤務する明治大学

ミス日本 グランプリ受賞

高68回 度會 亜衣子

2014年度卒の度會亜衣子と申します。この度、第51回ミス日本コンテスト2019においてミス日本グランプリを受賞いたしました。ミス日本コンテストへの挑戦を決めたのは、若く未熟な今のうちに、自分を変え、向上させられるような大きな経験をしたかったからです。2018年8月末に東日本地区大会を通して、ファイナリスト13名の中に選ばれました。その後数カ月に渡ってミス日本が用意した勉強会に参加し、マナーやスピーチ、日本の伝統文化について学びました。コンテスト本大会は2019年1月末、新宿の京王プラザホテルにて行われました。審査は自己紹介のスピーチや質疑応答によって行われます。大人数の前で話すことは緊張しましたが、このコンテストを無事に終えて一皮剥けたように思います。

予想だにしませんでしたが、この日、ミス日本グランプリの称号をいただきました。大きな王冠をかぶせていただいた時、この歴史あるコンテストで本当にグランプリに選ばれたのだと実感し、高揚の中でも身の



2019ミス日本グランプリに輝いた筆者

引き締まる思いがしたのを覚えています。ミス日本の任期は1年間です。ちょうど半分が終わり、思い返せばさまざまな経験をさせていただきました。学会の司会やボランティア活動、トークショーなどに加え、小池都知事、鈴木スポーツ庁長官、愛知県知事、岡崎市長など、普段お目にかかることのできない方々を訪問し、お話しさせていただきました。公の場で自分の言葉で話すことや、社会で活躍する方々とお話しすることが多いため、元々人前が得意でなく控えめな性格でしたが、自分の意識や振る舞いが変わってきているように感じます。

3年生となると医学部の勉強が本格化し、勉強量は増え続けています。そのためミス日本の活動との両立を負担に感じることもあります。しかし、学生の本業は勉強であると心得、その上で今しか出来ないことを大切にしようと、どちらにも全力を注いでいます。良い息抜きとなっているのは、趣味のフランス語です。

純粹な楽しみとなっており、先日はフランス語検定準一級に合格し、また成績優秀者として文部科学大臣賞を頂戴しました。今はとにかく目の前にあること一つ一つに真摯に向き合っており、さまざまな経験を積み重ねていきたいと思っています。そして、気がつけば以前知らなかった世界が見えてくる、そんな風になれたら素敵だなと思っています。

世話人リレーエッセイ

― 監査のお仕事 ―

高25回 戸田 譲三

皆さん、こんにちは。首都圏段戸会の監査を担当している高20回の辻村貴典と高25回の戸田譲三です。これから我々が責務を担っている監査の内容をご説明したいと思います。

皆さんは会計と監査のお仕事の違いをお分かりでしょうか？組織の運営には、人とお金が必要です。人は実際に体を動かして業務をこなしますが、その業務遂行にはお金が必要になります。そのお金には口が無くて無言なので、記録が必要になります。そのお金の動きを記録するのが会計です。いつ、誰から、いくらこの口座にお金が入ったか、逆に、いつ、誰が、いくら使ったかを記録します。記録と一言で言うとは簡単ですが、現実的には振込票から氏名・金額を整理し、郵便局へ行って現金を引き出したりします。会計担当の方は、寒い日も暑い日も雨の日も実際に動いて頂いているので我々も頭が下がります。ここまでの会計はもちろん正確に処理してもらっています



総会で会計監査報告をする筆者

が、ひよつとして勘違い等で間違っている可能性はゼロではありません。このように第三者的な立場で会計をチェックする業務が監査です。具体的には会計が処理した数値は、どの原始証拠から転記されたものなのかを確認します。

同窓会という組織の性格からすると、収益を生む活動をしているわけではないので、会員から集められたお金が会員のために効率的に使われているのが一番良い事だと言えます。こうすることで、出費も節約できます。ある支出が本当に皆さんのためになっているかを検討する機会が必要です。そのような意味で、会計と監査は車の両輪のようなものです。両方がうまく機能して初めて有効となります。そのため、同じ人物が会計と監査を担当すると、チェックが甘くなる可能性が出て来ます。不正な行為がある訳ではありませんが、この二つのお仕事は必要になります。これからの両輪が協力し合って段戸会のために尽力したいと思っています。



私のいた頃の岡高

【時代背景】

高26回 安藤 幸司

我ら高26回生の入学は、1971年4月、よく晴れた春の日であった。1クラス45名、9クラス、全405名、男女比率2対1（1クラス男性30名、女性15名）の学友が丘の上の学舎に通った。

1970年代は高度経済成長の最中でニクソンショックが襲い、公害問題が連日マスコミを賑わせていた。新学期が始まった4月の交通機関のストライキは約束行事であった。兄貴分の団塊世代が社会に問いかけた学生運動は、夏の終わりのように火照りを冷ましていた。高校生活も平静を取り戻し、自己の内面を見つめる生徒が多くなっていた。反面、これは学生運動の反動の「三無主義」（無気力、無関心、無責任）だとマスコミが揶揄した。高校三年次の1973年は、オイルショックにより経済成長が急速に減速し急激なインフレをもたらした。トイレレットペーパーがお店から消えた。20円の袋麺（インスタントラーメン）が60円の3倍になったことがお腹の記憶に残っている。

【本館新築】

1960年代から70年代にかけての学舎は、新館ラッシュの時代で、



修学旅行 大山にて（筆者は最前列左端）

二階建ての大きな体育館が1966年に建てられたのを皮切りに、古い木造校舎が取り払われ鉄筋4階建ての校舎が一つ二つと建てられた。我らは新校舎建て替えの間、ヤドカリのように教室を転々と移動していた。当時、西門と呼ばれていた場所に、旧正門が復元され御影石のりっぱな門が建った。高校の隣の敷地にあった愛知教育大学が刈谷に移転を決め、跡地に岡崎基礎生物学研究所が建てられるまでの間、大学のグラウンドを折に触れて借りていた。竜美ヶ丘地区、戸崎地区周辺は、宅地造成と区画整理が活発に行われて都市開発の石鎚が響いていた。

【修学旅行での出来事】

高26回生が集う度に繰り返される話題と言え、修学旅行の食中毒事件である。1972年9月、山陰・山陽の旅として姫路城、鳥取砂丘、出雲大社、大山登山、安芸の宮島を巡る3泊4日の旅行が組まれた。全9クラスを二手に分けてそれぞれ一日ずつ、後発隊が先発隊を追いかけた。事件は先発隊の初日の鳥取の旅館で起きた。夕食に供された松葉ガニが原因で、クラスメートが食中毒にかかってしまった。このニュースは地方新聞の朝刊にも報道された。翌夕に投宿した後発隊の食膳には、最初、松葉ガニがのぼったものの、仲居さんがこれを回収して代わりに鳥取名物の梨に置き換わった。「カニが無し（梨）になった」と、食欲旺

盛の我らは「フグは食いたし命は惜し」の思いで引かれていくカニを目で追ったことを思い出す。

第25回段戸フォーラム報告

高41回 立山 秀利

25回目を迎えた段戸フォーラムの講師は、プロパティデータバンク株式会社代表取締役社長を務める高34回の板谷敏正さんです。大手ゼネコン在職中の2000年、社内ベンチャー制度を活用して起業されました。事業の柱は不動産分野に特化した資産管理ソフトです。

板谷さんは講演冒頭で不動産の動向を紹介した後、創業時のポイントを話されました。大きな差別化要因がクラウド方式での提供です。顧客はソフトを買い取り、手元の各PCに入れて使うのではなく、サビス事業者の施設内にあるものをネットワーク経由で、月額料金を払って使う方式です。

現在主流のクラウドを20年近くも前に全面採用した先見の明には驚かされるばかりです。大手生保など全国各地に不動産を抱える顧客が多く、かつ、不動産管理はオーナーと管理会社と施工会社など、異なる組織をまたいで実施する必要があるため、クラウドなら管理ソフト導入・運用のコストと手間を劇的に減らせるのが大きな利点。板谷さんは実際に顧客を訪ねてまわり、要望や困りごとに耳を傾けた結果、解決策としてクラウドに自然と行き着いたそうです。

事業展開時の営業戦略もポイントでした。出身ゼネコンの顧客にとらわれず幅広く営業。出身ゼネコンのシェアは当時



講演される板谷さん

約2%しかなく、視野を広げることで残りの98%も潜在顧客としたのです。また、新規建設の不動産に縛られず、過去50年間に蓄積された既存不動産にも着目することで、顧客の裾野を大幅に広げました。クラウドとあわせて、この営業戦略は競合他社には当初なく、今日業界で頭一つ抜き出した地位を確立するに至りました。そして同社は昨年、東証マザーズ上場を果たしました。中心となった最高財務責任者が高40回の大田武さんです。上場審査基準が厳しさを増すなか、大役を務めあげられました。講演では上場セレモニーの動画が上映され、板谷さんと大田さんが鐘を鳴らす姿に、聴講者はみな感嘆の声を上げ拍手を送りました。

板谷さんは講演の最後に今後の戦略として、不動産と最新ITの融合である「不動産テック」を取り上げ、膨大なデータをAIで分析した賃料予想など提供中のサービスも紹介されました。創業から現在の飛躍までの足跡をご本人の生の声でお伺いできただけでなく、不動産やIT以外の分野でも大変参考になる知見に満ちた講演でした。

運営協力金のお願い

平素から首都圏段戸会の活動にご理解、ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

首都圏段戸会は回を重ね、本年第47回総会を迎えることになりました。前総会では、高2・中51回から高70回の190名ほどの方々にご参加いただきました。これもひとえに会員の皆様の温かいご支援の賜物と、心より感謝しております。

本会の特徴は岡崎高校の長い歴史を活かし、首都圏在住の大学生、社会人、さらに定年退職者など、幅広い年次の会員が集まり、総会に加え、各種イベントの開催やサークル活動を行っていることです。たとえば、学界、官界、産業界、法曹界、政界など、各分野で活躍されている会員を講師に招いた「段戸フォーラム」、さらに音楽、俳句、山登り、囲碁、食の同好の集まり「段戸サークル」があります。いずれも幅広い会員の交流の場となっています。また、こうした活動は年2回（春・秋）発行する「会報」、最新ニュースは「ホームページ」を通して、皆さんへお伝えしています。このような諸活動は、各年次から選ばれた90名近くの世話人による「ボランティア活動」と、会員の皆様からの「運営協力金」のご支援とによって支えられています。

これからも、人間的な手作りの感触を大切にし、同窓の皆さんが安心して集まれるよう、会の運営に努める所存であります。つきましては、首都圏段戸会の諸活動を益々充実したもののするため、これまで以上に幅広く、多くの会員の皆様から運営協力金のご支援を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔運営協力金の主な使途〕

会報の印刷・郵送費用、世話人会費用、ホームページ運営費用 等

令和元年 首都圏段戸会 世話人名簿

(高2回) 服部 登	広報
(高3回) 丹羽 鼎	
(高6回) 有馬 弘政	
(高7回) 是津 定利	
(高8回) 杉浦 嘉久	
田中 厚生	
(高9回) 岡田 敏夫	
(高10回) 宇佐美 忠利	
(高11回) 太田 栄之	会長・情報
永田 宏	
(高12回) 鶴田 文男	
成瀬 徹	
(高13回) 中 浩之	
(高14回) 磯尾 進	
水谷 鏡子	
(高15回) 神谷 国広	
満江 信之	企画
(高16回) 横井 昭親	
(高17回) 伊與田 正彦	
山田 博子	
(高18回) 伊藤 博邦	
音部 昌宏	
清水 久雄	
山内 恵	会計監査
(高19回) 都築 正行	
福山 透	
(高20回) 天野隆 太郎	
辻村 貴典	
(高21回) 小栗 恵子	
山田 俊文	

(高22回) 上田 洋子	副会長・書記・広報
中村 賢治	会計
(高23回) 野々山 浩	
(高25回) 内田 寛	会計監査
戸田 譲三	
(高26回) 織田 利彦	事務局長・企画・広報
(高27回) 長田 光雄	会計
岸 洋平	
山崎 正枝	副事務局長・企画
(高28回) 酒井 邦彦	
(高30回) 米津 智徳	企画
(高31回) 石田 満理	
高原 正之	企画
岩間 由紀	
(高32回) 堀内 友二	企画
(高33回) 小出 一典	
山本 岳彦	副事務局長・企画・情報
鈴木 祐子	
(高34回) 板谷 敏正	副事務局長・企画
井上 由美子	副事務局長・企画
(高35回) 糸井 真由美	
小川 美季	広報
菅 伸介	
(高36回) 平松 理生	副事務局長・会員
(高37回) 稲葉 重浩	
庄司 聖志	企画
(高38回) 中西 和幸	
(高40回) 大田 武	会計

(高41回) 立山 秀利	書記
中鉢 朋子	
(高42回) 長野 麻子	広報
(高43回) 五十嵐 妙	
(高44回) 松尾 直樹	企画
(高45回) 筒井 貴之	
西浦 瑞恵	情報
(高46回) 朝岡 大輔	
大川 博	広報
(高47回) 杉本 いづみ	
佐藤 さおり	会員
(高50回) 鳥居 福代	
(高52回) 清水 雄太	情報
近藤 佳子	
(高53回) 石井 貴大	広報
辻内 直子	
(高54回) 安藤 康伸	企画
岡田 尚博	
加藤 直也	企画
(高57回) 川口 敦子	
(高58回) 石川 航己	企画
岩間 亮	
(高59回) 嶋田 亘	企画
(高60回) 本多 健太郎	
(高61回) 鈴木 貴之	会員
中原 槇子	
(高62回) 栗津 文香	企画
(高63回) 河原 宏太	
吉兼 峻史	企画
(高64回) 鈴木 康啓	
扶瀬 聡史	

編集後記

令和の時代の幕明けとなりました。まずは福山新会長から就任のご挨拶をいただきました。福山会長は大学退職後も精力的に活動され、国内外の学会活動や大学で講義をされておりです。

さて、会報では「チャレンジ」をテーマに、さまざまな世代の方々から寄稿いただいております。今回は学識経験者として古稀を過ぎても研究、教育に勤しんでおられる大山さん、伊與田さん、そして最近、銀行から大学に転職された朝岡さんからのご報告をお届けします。先生方が研究、教育に携わる強いモチベーションがひしひしと伝わってくると思います。また、若い世代からは、「2019ミス日本グランプリ」に輝いた東大医学部に通う渡倉さんから受賞報告をいただきました。勉強もさることなき、このようなチャレンジも見事です。

一方、「私のいた頃の岡高」では、木造から鉄筋校舎への切替わり、食中毒に遭遇した修学旅行など、当時の思い出を安藤さんに懐かしく語っていただきました。同年の小生も同感です。「世話人リレーエッセイ」は会計監査担当の戸田さんに執筆いただきました。会員の方々は相続相談については無料とのこと。最後は、チャレンジャーとして大手ゼネコンから社内ベンチャーとして独立創業された板谷さんの段戸セミナーでの講演を載せました。板谷さんはポーター賞受賞、マザーズ上場など輝かしい経歴をお持ちですが、そこに至るまでのご苦労などをたつぷりと聞かせていただきました。（織田）

平成30年度運営協力金協力者芳名

賛助法人	スターツコーポレーション株式会社	(高14回)	阿部 完二	天野 彰江		小石 林宏史	竹本 仁之
	田辺総合法律事務所		磯尾 郊二	村垂 澄一	(高26回)	宏妙 容明	本 田 利彦
	税理士法人みらいパートナーズ		伊奈 輝	岩織 金笹		史子 誠明	織 田 明芳
	岡崎信用金庫		太笠 英子	伊奈 綾勝	(高27回)	子 康雄	杉 高 修司
(中49回)	村松 義定		中 島 鏡一	中 牧 長		み 久淳	沖 野 洋
(高1・中50回)	太田 八雄	(高15回)	谷 慎一	坂 江 信	(高28回)	元 邦彦	岸 山 崎 裕正
(高2・中51回)	青山 敦夫	(高16回)	本 多 智	大 山 達		信 人	長 坂 光
	今井 敏夫		山 口 康	鈴 木 貞	(高29回)	俊 郎	日 高 和
	志賀 茂郎		鈴 木 多	野 村 弘	(高30回)	定 子	藤 井 澤 温
(高3・併23回)	三城 正次		野 崎 善里	早 稲 田 嘉夫	(高31回)	満 理淳	中 小 米 智由
	阿部 恭道	(高17回)	渡 藤 雅	伊 与 田 正彦		子 紀子	内 山 静典
	伊藤 芳一		近 藤 康	佐 中 兵 幸善	(高33回)	重 祐太	小 滝 春 成
	小澤 藤一	(高18回)	武 藤 隆	山 伊 佐 史博		耕 か 敏陽	成 上 由美
	加川 正良		新 喜 久成	清 高 孝俊	(高34回)	谷 崎 佐和	戸 木 村 宏
	久保 雅子		高 寺 柵	山 本 芳	(高35回)	田 井 真	鈴 吉 小 玲
	鈴木 綾次	(高19回)	安 岩 正	石 遠 上 倉 須		澤 昌泰	小 洪 鳥 久
(高4・併24回)	高松 米津		岡 近 鈴	竹 都 中 福	(高36回)	澤 山 松	鈴 木 貴之
(高5回)	安杉 有説		竹 都 中 福	宮 天 伊 木	(高37回)	渡 小 天	柴 田 哲
(高6回)	市近 杉高		宮 天 伊 木	野 隆 太	(高38回)	中 重 中	桃 勝 立
	羽谷 三吉		野 隆 太	村 和 貴	(高41回)	生 長 五	勝 立 西
(高8回)	小高 外		村 和 貴	土 誠一	(高42回)	十 嵐 直	秋 杉 山
(高9回)	石片 香高		土 誠一	男 邦子	(高43回)	尾 野 川	前 里 雄
	安藤 哲生	(高20回)	男 邦子	孝 治子		大 天 杉	渡 岡 早
(高10回)	宇佐 美忠		孝 治子	洋 昇典	(高44回)	青 谷 井	羽 佐 田
	杉浦 鮎敦		洋 昇典	高 次子	(高45回)	清 辻 安	近 藤 佳
(高11回)	山本 眞		高 次子	知 波 茂	(高46回)	川 野 本	服 部 昌
	青木 晃初	(高21回)	知 波 茂	樹 志二	(高47回)	山 本 川	加 藤 直
	市幸 永平		樹 志二	昭 人門	(高48回)	川 本 居	岩 間 亮
(高12回)	村田 正早		昭 人門	文 子	(高49回)	谷 井 清	吉 兼 峻
	稲垣 早房	(高22回)	文 子	哲 孝	(高50回)	井 上 水	富 田 佳
	近藤 満智		哲 孝	龍 雄	(高51回)	辻 安 川	
	中田 尚弘		龍 雄	章 一	(高52回)	石 高 本	
(高13回)	内藤 井重		章 一	則 史	(高53回)	高 鈴 太	
	新柴 杉功	(高23回)	則 史	広 夫	(高54回)	鈴 太 河	
	鈴田 淵	(高24回)	広 夫	子 二	(高55回)	河 鈴 稻	
	中実 野多	(高25回)	子 二		(高56回)	光	
					(高57回)	氏名不詳3名	